

市町村名	西原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-①	観光地美化・緑化等環境整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-3-(2)-(ア)		
担当部課名	建設部都市整備課	事業実施(予定)年度	平成24年度 ～ 令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	「新しい生活様式／ニューノーマル」における安全・安心で快適な観光の推進			
					Ⅲ-1-(1)			
事業内容	沖縄らしい風景を保全するため、公園の芝刈り、樹木剪定、植栽等の適切な管理を行い、魅力的な観光地としての景観形成を図る。また、公園の活性化を図り、利用者の健康増進に寄与し、満足いくような景観の形成を図る。							
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)							
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	17,100	16,000	20,000	20,000	25,872	
		(b) 予算現額	16,500	15,620	19,800	19,965	23,496	
		(c) 増減額(b-a)	▲ 600	▲ 380	▲ 200	▲ 35	▲ 2,376	
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		16,500	15,620	19,800	19,965	23,496	
	B. 執行済額		16,500	15,620	19,800	19,965	23,496	
	うち交付金充当額		13,200	12,496	15,840	15,972	18,796	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予算と契約額に差額があり、24千円の残額が生じたが、事業は予定どおり執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	町内公園の美化・緑化実施(3箇所) ①西原運動公園 ②東崎公園 ③東崎都市緑地		目 標	(3箇所)	(3箇所)	(3箇所)	(3箇所)	
			実 績	3箇所	3箇所	3箇所	3箇所	
達成状況説明	環境整備により、雑草や樹木の繁茂を抑制し、美化・緑化等を行い、沖縄らしい景観を保持し観光に貢献することができた。 ①西原運動公園:各種スポーツ競技やサッカーキャンプ、イベントを開催し、公園利用が活性化している。 ②東崎公園:各種イベントやサッカーキャンプを開催し、隣接の東崎都市緑地やマリンパークと一体的に利用されるなど活性化している。 ③東崎都市緑地:隣接する東崎公園やマリンパーク及びビーチと一体的な施設として利用され、活性化している。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
			目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
			実 績		78%	82%	85%	
	進捗状況説明	環境整備による美化・緑化等を行うことで、沖縄らしい景観等を保持し観光地施設地内を快適に利用することができるようになった。令和6年度のアンケート調査の結果は85%で目標を達成することができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(利用者の満足度) 成果目標については、満足度80%の目標に対し、85%を達成することができた。目標達成の要因としては、草刈りの回数を増やし、草などが繁茂する状況を減らした。	(利用者の満足度) 目標としている満足度80%以上の達成に向けて、効率的、効果的に成果を発揮できるよう引き続き植栽等管理に取り組む。
今後の取り組み方針		
・業務受託者との調整会議で作業対象となる箇所を確認し、効率的に芝刈り、樹木剪定、植栽等を行うことで、魅力的な観光地としての景観形成に取り組む。また、草刈りが不足していると想定される箇所の草刈りの回数を増やし、魅力的な景観形成を維持する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
西原町 23,496千円 委託料 23,496千円 公益財団法人 西原町シルバー人材センター 23,496千円 観光地美化・緑化等環境整備管理業務委託				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		23,496	23,496	18,796
				市町村負担金
				4,700
				交付対象外経費
				0
資金使途の流れ・点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法第167条2第1項第3号の規定に準じて随意契約を行っており、妥当であった。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初計画に見合った目的、予算規模を達成しており、適正であった。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用、使途については毎月の報告により検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断し、適正であった。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②		文化財環境整備活用事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(4)－ア	
担当部署名	教育部 文化課		事業実施(予定)年度	平成25年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄文化の継承・発展・普及	
事業内容	西原町には、琉球王朝時代を中心とした文化財や伝承地が多く残されている。これらの歴史的・文化的資源を観光資源として活かすために、来訪者や地域で活動する文化財ガイド団体が利用できるような文化財等の周辺美化や文化財ガイドの育成及び文化財巡り当イベントを開催するなど、観光誘客に向けた基礎的環境整備を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	6,388	6,463	5,658	7,301	12,607
		(b) 予算現額	6,388	6,566	5,317	7,360	12,298
		(c) 増減額(b-a)	0	103	▲ 341	59	▲ 309
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	6,388	6,566	5,317	7,360	12,298
	B. 執行済額		6,338	6,452	5,213	7,360	11,845
	うち交付金充当額		5,070	5,161	4,170	5,887	9,476
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.2%	98.3%	98.0%	100.0%	96.3%
予算の状況の説明		・文化財及び文化財周辺の観光美化・整備業務、町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診断・治療業務及び指定文化財敷地内樹木の調査を当初の計画どおり執行した。また、委託に関して、設計額が当初より減額となったことや、入札残が発生したため、予算額と乖離が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	文化財及び文化財周辺の環境美化・整備の実施:24箇所	目 標	(文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回)	(文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回)	(文化財20箇所×2回 指定文化財4箇所×4回)	(文化財20箇所×2回 指定文化財3箇所×4回 国指定文化財1箇所×6回)	
		実 績	文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回	文化財21箇所×2回 指定文化財3箇所×4回	文化財20箇所×2回 指定文化財4箇所×4回	文化財20箇所×2回 指定文化財3箇所×4回 国指定文化財1箇所×6回	
	町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診断・治療	目 標	(診断・治療)	(診断)	(診断)	(診断・治療)	
		実 績	診断・治療完了	診断完了	診断完了	診断・治療完了	
	指定文化財敷地内樹木の調査 「内間御殿敷地内(東江御殿)フクギ調査」	目 標	(/)	(/)	(/)	(調査)	
		実 績	/	/	/	調査完了	
	・文化財ガイドの育成 勉強会:12回(月1回) ・文化財巡り等イベント開催:3回	目 標	(勉強会12回開催、 イベント3回開催)	(勉強会12回開催、 イベント3回開催)	(勉強会12回開催、 イベント3回開催)	(勉強会12回開催、 イベント3回開催)	
		実 績	勉強会6回開催、 イベント2回開催	勉強会11回開催、 イベント3回開催	勉強会16回開催、 イベント3回開催	勉強会4回開催、 イベント3回開催	
達成状況説明	・文化財及び文化財周辺の環境美化について、当初の目標通り24箇所の清掃等を実施した。 ・町指定天然記念物「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」の診断については、令和5年度から比較して、枝葉が北面に10cm、東面に10cm、西面に10cm、南面に10cm伸長しており、枝葉の密度が増加してきているとのことで、平成30年度以降の土壤改良等が樹勢回復に繋がったと推察される。 今年度は腐葉土を敷き詰める治療を行ったため、今後も診断を実施し、様子を見ていく。 ・イベントについては、計画通り「歴史講演会」「歴史の道を歩く」「地域散策事業」の3つのイベントを開催した。 ・歴史ガイド団体の勉強会は、4回となり、目標を達成しなかった。ガイド団体の自主事業が増えており、その分の準備等に回していたためである。 また、勉強会のあり方についての見直しも行っている。文化財巡りイベント開催に向けた現況見学、ルート確認等は引き続き実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	文化財巡り等イベント参加者数170名	目 標	()	歴史講演会:100名 歴史の道を歩く:40名 地域散策市内色揃い:30名	歴史講演会:100名 歴史の道を歩く:40名 地域散策市内色揃い:30名	歴史講演会:100名 歴史の道を歩く:40名 地域散策市内色揃い:30名	()
		実 績	/	歴史講演会:35名 歴史の道を歩く:20名 地域散策事業:17名	歴史講演会:56名 歴史の道を歩く:39名 地域散策事業:38名	歴史講演会:71名 歴史の道を歩く:43名 地域散策事業:40名	/
	進捗状況説明	・当初計画通り「歴史講演会」「歴史の道を歩く」「地域散策事業」の3つのイベントを開催した。できる限り募集人員も増やし、全てのイベントにおいて、令和5年度よりも、参加者は増加した。特に「歴史の道を歩く」と「地域散策事業」については目標を上回る参加があった。しかし、「歴史講演会」71名、「歴史の道を歩く」43名、「地域散策事業」40名で、計154名となり、目標値を達成することはできなかった。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・屋外イベントは、地域散策事業において、開始後に雨に見舞われたものの、できる限り廻り、廻れなかったところについても雨の当たらない場所で、説明を行う等、工夫して開催した。しかし、散策中の安全管理や声の範囲、バスの定員等の関係から案内できる人数が限られてしまっており、そこから、当日キャンセルが出てしまった。 ・屋内イベントは、募集人数を増やして開催したが、募集人数に達していなかった。 ・本年度で指定文化財敷地内樹木の調査として、国指定史跡「内間御殿」敷地内(東江御殿)の高木のフクギ29本を調査し、空洞化は目立つが、すぐに倒木する恐れはないという診断であった。 ・活用の多い国指定史跡「内間御殿」の環境美化を年4回から6回に増やしたが、短期間で繁茂しやすい環境であった。 ・「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」については、本年度の診断結果から、平成30年度以降に実施した治療が、樹勢回復に繋がった可能性が考えられる。また、腐葉土を敷き詰める土壌改良の治療を実施したため、次年度の診断結果にさらに変化があるか注視したい。	・直前のキャンセルに対応できるよう、キャンセル待ちの枠を設け、できる限り多くの人を案内できるような仕組みを作る。 ・屋内イベントに関しては、より周知を図って、開催する。 ・「内間御殿」のフクギは、空洞化の拡大により、倒木の可能性が考えられるため、定期的なモニタリング調査が必要である。 ・次年度は、活用の多い国指定史跡「内間御殿」について、恒常的に活用できるよう、環境美化の回数を8回に増やして対応する。 ・「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」は、引き続き診断を実施していく。
今後の取り組み方針		
・文化財の案内等を行うガイド団体の育成を図り、できる限り多くの人を案内できるような仕組みを取りながら、屋外での文化財案内イベントを開催する。 ・屋内開催イベントは、様々な媒体を活用して、周知を図りながら、本事業の重要な文化財活用の一つとして、引き続き実施する。 ・フクギに関しては現段階では5年後を目途にモニタリング調査を実施する。 ・今後も文化財が保存・活用できるように、文化財及び文化財周辺の基礎的環境整備を引き続き実施する。 ・「内間御殿のサワフジ(サガリバナ)」は、土壌改良を実施し、引き続き樹勢状況を見ながら治療方法等について検討していく。また、全体的に花やつぼみがつくなど、樹木の状態が良好になったときは、開花時期に合わせてライトアップを行うなどの活用に取り組みたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
11,845	11,845	9,476	2,369	0

西原町 11,845千円	報酬 2,315千円	会計年度任用職員報酬(1名) 2,315千円	〔文化財ガイド育成、環境美化実施〕
	職員手当等 887千円	期末・勤勉手当(1名分) 887千円	〔会計年度任用職員 1名分〕
	共済費 495千円	社会保険料(1名分) 274千円	〔会計年度任用職員 1名分〕
		共済組合負担金(1名分) 221千円	〔会計年度任用職員 1名分〕
	旅費 66千円	費用弁償(1名分) 66千円	〔会計年度任用職員 1名分〕
	委託料 8,082千円	公益社団法人 西原町シルバー人材センター 3,803千円	〔令和6年度文化財及び文化財周 辺環境美化・整備業務委託〕
		株式会社グリーンテクトーパル 429千円	〔令和6年度「内間御殿のサワフ ジ」診断業務委託〕
		株式会社トロピカルグリーン設計 3,850千円	〔令和6年度内間御殿敷地内(東 江御殿)フクギ調査業務委託〕

資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○「令和6年度文化財及び文化財周 辺環境美化・整備業務委託」は、地方自治 法施行令第167条の2第1項第3号の規定に準じて随意契約を行っており、妥当で あったと考えている。また、「令和6年度内間御殿のサワフジ(サガリバナ)診断・治 療業務委託」は、契約規則第40条第6号の規定に準じて随意契約を行っており、妥 当であったと考えている。 ○「内間御殿敷地内(東江御殿)フクギ調査業務委託」は、指名競争入札によつて 実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模について、執行率96%を超えており、適正な規模であったと考えてい る。 ○費目、使途については、内訳書の提出及び精算段階で検査を実施しており、目 的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-①	小学校外国語活動指導員派遣事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-ア			
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際感覚を身に付ける教育の推進			
					Ⅲ-3-(1)			
事業内容	町立小学校へ外国語活動指導員を派遣し、学級担任とのチーム・ティーチングを行う中で、担任の指示に基づき、英語の発音を聞かせたり、コミュニケーション活動のモデルを示したり、外国の生活や文化等の情報を伝えることで、小学校における外国語教育の充実を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	4,615	4,710	5,146	5,202	7,013	
		(b) 予算現額	5,019	4,961	5,146	5,202	7,343	
		(c) 増減額(b-a)	404	251	0	0	330	
		(d) 繰越額						
	A. 計(b+d)		5,019	4,961	5,146	5,202	7,343	
	B. 執行済額		4940	4957	4725	4,001	7,279	
	うち交付金充当額		3952	3966	3779	3,200	5,823	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		98.4%	99.9%	91.8%	76.9%	99.1%	
予算の状況の説明		当初予定していた支出額に対し、給与改定による差額支給等もあり、当初予算額を上回る支給となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	外国語指導員2名派遣(町立4小学校)		目 標	(2名)	(2名)	(2名)	(2名)	
			実 績	2名	2名	2名	2名	
達成状況説明	小学校外国語活動指導員2名を町内4小学校に派遣した。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	児童の外国語への興味・関心が高まったか(82%以上)を含め、アンケートにより、本事業のあり方について検討する。	目 標	(82%)	(80%)	(82%)	(82%)	()	
		実 績		81.2%	74.6%	91%		
	【参考指標】英語の授業が「好き」と答えた児童が85%以上	目 標	(82%)	(85%)	(85%)	(85%)	()	
		実 績		87.5%	85.2%	93%		
	【参考指標】町内小学校英語派遣指導員派遣率100%	目 標	(82%)	(100%)	(100%)	(100%)	()	
		実 績		100%	83.3%	100%		
進捗状況説明	・外国への興味・関心が高まったかという質問に対し、91%の児童が関心があったという回答であり、目標を上回った。 ・英語の授業が「好きですか」との質問に対し、93%が「はい」と回答し、目標値を上回った。 ・小学校外国語指導員は、町内4小学校に対し2名配置することができた。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・成果目標について、令和6年度はアンケートの集計方法や設問の文言を工夫したことで、目標値が達成できたと考えられる。 ・学級担任との効果的なチームティーチングを行うためには、事前のミーティングが不可欠である。令和6年度からは勤務形態を1時間延ばし、ミーティングが確保できるように見直した。	・アンケートについては、今後とも児童を対象としていることを忘れず、事業の評価がしやすい工夫を図る必要がある。 ・今後はミーティングの時間を有効活用し、学級担任等と小学校英語専科教員等と、日常的に連携を行い効率的に事業の効果を高めていく必要がある。また、英語指導等について、小中連携を図り、授業一貫した指導体制作りを設ける必要がある。
今後の取り組み方針		
・事業の効果を高められるよう、引き続き効率的な人員配置を行う。 ・中学校との円滑な接続を図ることができるよう、学習意欲を高めるような授業運営について、学級担任や小学校英語専科教員との連携を強化して、教材研究・教材作成を行い、外国語に対する児童の積極性を高めることにつなげていく。 ・今後も小学校と中学校の連絡が有てできるような連絡会や研修会を設けていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
西原町 7,279千円 報酬(2名) 4,636千円 期末・勤勉手当(2名) 1,640千円 共済費(2名) 944千円 費用弁償(1名) 59千円 小学校外国語活動指導員 (会計年度任用職員 2名)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>7,279</td><td>7,279</td><td>5,823</td><td>1,456</td><td></td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	7,279	7,279	5,823	1,456	
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
7,279	7,279	5,823	1,456											
資金使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○相談員は公募により面接を行い、実績、知識等を勘案した上で適切な人材を選定している。 ○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。 ○費用、使途については支援員雇用、配置にあたって必須の経費となる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-②	教育相談員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-イ	
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施(予定)年度	平成24年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心と健やかな体を育む学校教育の推進		
事業内容	町教育委員会教育相談室に教育相談員を配置し、いじめ・不登校問題・長期欠席など、学校生活等への課題に関して町内の幼児・児童生徒やその保護者からの相談を受けたり、学校や関連機関との調整を行うことで、学校生活等の困難の改善を図り、児童・生徒の心身の健全な発育を促進する。 ・教育相談員の配置3名 ・定期的な学校訪問(町内小中6校) ・教育委員会との連絡会議の実施(5回以上)						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,416	2,412	2,412	2,412	2,876
		(b)予算現額	2,416	2,412	2,412	2,845	3,083
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	433	207
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	2,416	2,412	2,412	2,845	3,083
	B.執行済額		2323	2306	2329	2,698	2,765
	うち交付金充当額		1858	1845	1862	2,157	2,212
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		96.2%	95.6%	96.6%	94.8%	89.7%
予算の状況の説明		・年度当初より、計画していた人員を配置し実施することができた。 ・会計年度任用職員の給与改定に伴う差額分の支給が生じ、報酬の増額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	教育相談員配置数(3人)	目標	(3人)	(3人)	(3人)	(3人)	
		実績	3人	3人	3人	3人	
	教育委員会との連絡会議の実施(5回以上)	目標	(5回以上)	(5回以上)	(5回以上)	(5回以上)	
		実績	11回	11回	11回	11回	
	教育相談員の定期的な学校訪問(町立小中6校)	目標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)	
実績		実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	・教育相談員を3名配置した。 ・教育委員会との連絡会議を10回開催し、現在支援している児童生徒の情報共有を図った。指導主事、臨床心理士も同席し、支援の見立てについて確認、アドバイスをもらった。 ・各担当小中学校に分かれて週1～2定期的な学校訪問をおこない、児童生徒や保護者面談、ケース会議等に参加し学校側と密な連携をおこなっている。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(7年度)
	相談員が関わった児童生徒のうち、学校生活への適応や状況改善に向けて変容が確認できた児童の割合67%以上	目標	()	(28%以上)	(35%以上)	(67%以上)	(35%以上)
		実績		72.30%	64.78%	79%	
	進捗状況説明	教育相談員が関わった事例のうち、状況改善に向け変容が確認できた割合については目標実績を達成することが出来た。教育相談員による認知が定着し、各学校へ実施したアンケートでは”相談員と生徒と継続した支援のなかで学校側の支援方針がスムーズになり、今年度からは完全に学級復帰できた”といった評価を得ることができた。また、今年度より評価基準を前年度より細かく設けることで新規・継続児童生徒数や関りの多い学年など支援状況や課題をより明確にすることができ、年度末の振り返りや次年度に向けての成果目標へのアプローチ方法を検討するきっかけとなっている。					

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-③	学習支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-ア	
担当部署名	教育部 教育総務課	事業実施 (予定)年度	平成25年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	確かな学力を身に付ける学校教育 の充実		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	・町立小中学校6校において、学習支援員を各小中学校に配置し、授業における学習支援や放課後の補習支援等、各児童生徒の学力に応じた 個々の学習指導を行うことにより、児童生徒の学力向上を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	27,142	28,478	30,426	35,421	43,891
		(b) 予算現額	27,375	28,514	27,664	32,708	46,670
		(c) 増減額(b-a)	233	36	▲ 2,762	▲ 2,713	2,779
		(d) 繰越額					
		A. 計(b+d)	27,375	28,514	27,664	32,708	46,670
	B. 執行済額		27,041	27,786	26,583	32,286	45,255
	うち交付金充当額		21,502	22,228	21,265	25,828	38,204
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		98.8%	97.4%	96.1%	98.7%	97.0%
予算の状況の説明		・6月より欠員が発生し、10月には確保することができたが、4ヵ月間不足の状況となった。 ・途中退職者に伴う欠員等により補充が厳しい状況となり、当初予算との乖離が生じた。 ・会計年度任用職員の給料改定分の差額支給に伴い当初予算との乖離が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	学習支援員配置数(全小中学校配置) 小学校:10人 中学校: 4人	目 標 実 績	(小学校:8人 中学校:4人) (小学校:8人 中学校:4人)	(小学校:8人 中学校:4人) (小学校:8人 中学校:4人)	(小学校:10人 中学校:4人) (小学校:10人 中学校:4人)	(小学校:10人 中学校:4人) (小学校:10人 中学校:4人)	
達成 状況 説明	・小学校4校へ10名、中学校2校へ4名計14名の支援員を配置したが、途中退職者がおり、年明けからは支援員が1名体制 の学校があった。 ・支援員を配置し、授業中の学習支援、放課後の補習、夏休み期間中の補習等、学習支援を行い、学力の向上を図った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	沖縄県学力到達度調査における県平均正答率との差 ・小学校 国語 2.8以上 算数 2.8以上	目 標	()	(小 国語 +3.6以上 算数 +4.1以上)	(小 国語 +3.6以上 算数 +4.3以上)	(小 国語 +2.8以上 算数 +2.8以上)	()
		実 績		小 国語 +1.0 算数 +1.1	(小 国語 +5.8 算数 +3.2)	(小 国語 +2.7 算数 +3.3)	
	・中学校 国語 4.0以上 数学 4.1以上 英語 0.6以上	目 標	()	(中 国語 +0.8以上 数学 +4.1以上 英語 +0.6以内)	(中 国語 +4.3以上 数学 +4.8以上 英語 +0.3以上)	(中 国語 +4.0以上 数学 +4.1以上 英語 +0.6以上)	()
		実 績		中 国語 -0.1 数学 +2.5 英語 -1.2	(中 国語 +1.0 数学 -2.2 英語 -2.2)	(中 国語 -1.0 数学 -1.5 英語 -5.4)	
進捗 状況 説明	・学習支援員と学級担任が連携し、児童生徒の学習の進捗状況の把握(前年度との習熟度の比較等)による、支援が必要と思われる 児童生徒に対し、授業中の補助や放課後の補修などを行い、学習支援に取り組んだ結果、小学校では国語で2.7ポイント、算数で3.3ポ イント県平均回答率を上回ったが、中学校においては、すべての教科で県平均正答率を下回り、成果目標はわずかに届かなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・今年度は沖縄県の平均と比較し、小学校は国語・算数ともに県平均を上回ることが出来たが、中学校はすべての教科で県平均を下回った。基礎学力の定着が不十分であることが考えられる。 ・配置する支援員については、教員免許状所有者を要件としており、今年度、年度途中の退職により、人員を確保することが厳しい状況があった。	・任用を継続し、個々の児童生徒について経年で把握を行うことで、より効果的な支援が可能と考える。 ・人員確保が厳しい場合に、教員免許状所有者に限定せず、学習指導経験者(学習塾等での指導経験)も含めた取り組みを検討する。
今後の取り組み方針		
・今後、各学校において課題意識を持ち、授業による全体支援と、補習等による全体の底上げを主とした個別指導に継続的に取り組みを強化する必要があると考える。 ・人員確保に向け、近隣市町村の勤務条件や職場環境について情報収集し、改善すべき部分については検討、対応していく。 ・町ホームページや広報紙、ハローワークの活用、教職員への情報提供呼びかけ等さまざまな手段により情報発信を行い、人材募集の周知に努めていく。それでもなお人材確保が困難な場合は、有資格要件の緩和を検討する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>45,273</td><td>45,255</td><td>36,204</td><td>9,051</td><td>18</td></tr></table> 西原町 45,255千円 報酬(15人) 28,622千円 〔ほか、報酬費(対象外経費18千円)〕 職員手当(15人) 10,558千円 費用弁償(13人) 746千円 共済費(15人) 5,329千円 学習支援教育支援員 (会計年度任用職員 14人)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	45,273	45,255	36,204	9,051	18
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
45,273	45,255	36,204	9,051	18										
資金の 使途の 流れ ・ 検 査 ・ 費 目 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は公募により面接を行い、実績、知識等を勘察した上で適切な人材を選定している。 ○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。 ○費用、使途については支援員雇用、配置にあたって必須の経費となる。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-④	特別支援教育支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ	
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施 (予定)年度	平成25年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の変化に対応する魅力あ る学校づくりの推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	町立小中学校6校において、特別な支援を要する障害がある児童生徒に対し、学習活動や学校生活の支援を行う特別支援教育支援員を配置し、対象児童生徒の学校生活や学習上の困難の改善を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	30,212	31,211	32,407	42,104	60,615
		(b) 予算現額	31,614	32,210	31,005	43,629	62,285
		(c) 増減額(b-a)	1,402	999	▲ 1,402	1,525	1,670
		(d) 繰越額					
	A. 計(b+d)	31,614	32,210	31,005	43,629	62,285	
	B. 執行済額		31,294	31,901	30,848	43,501	61,809
	うち交付金充当額		25,035	25,520	24,678	34,800	49,447
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.0%	99.0%	99.5%	99.7%	99.2%
予算の状況の説明		・年度当初より計画どおりの支援員20名を配置し、円滑な事業実施が出来た。 ・会計年度任用職員の給料改定分の差額支給に伴い当初予算との乖離が生じた。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	特別支援教育支援員配置数 小中学校:21人	目 標	(支援員 14人 心理士 1人)	(支援員 14人)	(支援員 18人)	(支援員 21人)	
		実 績	支援員 14人 心理士 1人	支援員 14人	支援員 18人	支援員 20人	
	・支援員の資質向上のために、内部研修を実施(2回)	目 標	(2回)	(2回)	(2回)	(2回)	
		実 績	3回	3回	3回	2回	
達成 状況 説明	・各学校の支援を要する児童生徒の実情に合わせて小学校に特別支援教育支援員を16人、中学校に4人を配置し、対象児童生徒に対して支援を行うことができた。 ・町の心理士や沖縄県立特別支援学校の教諭による特別支援教育支援員研修会を年2回実施した。支援員間の有意義な情報交換により、児童生徒に対する対処方法を共有し、充実した支援につなげることができた。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	年度末に実施する支援対象児の状況調査において、改善した児童数を86%以上	目 標	()	(77%以上)	(86%)	(86%)	()
		実 績		76.1%	84.9%	69.5%	
	進 捗 状 況 説 明	・支援を受けた児童生徒の状況の変化を5段階評価で調査した結果、「改善した」が3.1%、「やや改善した」が66.4%で、合わせて69.5%の児童生徒に何らかの改善がみられる結果となったが、目標値の86%は達成出来なかった。 ・達成出来なかった原因として、対象児童生徒の不登校(登校しぶり)等により支援が行えない状況や基礎疾患による見守り等の支援のため、直接の評価に繋がらないことが挙げられる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・調査の結果、約7割の支援対象児童・生徒が改善の傾向にあり、本事業による一定の成果は出ていると考えられる。しかしながら、変化なしの割合が27.5%あり、支援員の質の向上を図るために、研修内容の充実を図る必要がある。 ・現在は、安全面での支援が必要な児童生徒を優先的に支援員の配置を行っているが、支援を必要とする児童生徒は増えてきており、支援員配置基準を検討するとともに、より多くの児童生徒に対応できるよう、支援員増員も含め配置方法を検討する。	・対象児童生徒の特性に応じた相談や支援員自身のスキルアップのために、専門家の研修会の開催や、町の心理士による巡回指導を実施する。 ・支援対象児童生徒の決定時期を早め、必要な支援員数や配置校を早めに決定する。
今後の取り組み方針		
・町の心理士や県の特別支援コーディネータを活用し、専門的な立場からの支援員への研修や助言を実施し、支援員の資質向上に取り組み、対象児童へのより充実した支援につなげる。		

資金の流れ

(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
61,990	61,809	49,447	12,362	181

西原町
61,809千円

報酬(20人)
38,390千円

〔ほか、報酬費(対象外経費181千円)〕

職員手当(21人)
14,988千円

費用弁償(12人)
425千円

共済費(21人)
8,006千円

特別支援教育支援員
会計年度任用職員 20人)

資金の流れ、点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員は公募により面接を行い、適切な人材を選定している。 ○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。 ○費用、使途については支援員雇用、配置にあたって必須の経費となる。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-⑤	幼稚園特別支援教育支援員配置事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(2)-エ		
担当部課名	教育部 教育総務課	事業実施 (予定)年度	平成26年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	時代の変化に対応する魅力あ る学校づくりの推進			
事業内容	Ⅲ-3-(1)							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	45,541	54,653	72,660	48,858	37,318	
		(b) 予算現額	38,800	51,045	60,673	35,525	33,312	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 6,741	▲ 3,608	▲ 11,987	▲ 13,333	▲ 4006	
		(d) 繰越額						
	A. 計 (b+d)		38,800	51,045	60,673	35,525	33,312	
	B. 執行済額		38,493	50,302	59,719	34,944	32,669	
	うち交付金充当額		30,794	40,241	47,775	27,954	26,135	
	次年度繰越額							
	執行率 (%) (B/A)		99.2%	98.5%	98.4%	98.4%	98.1%	
予算の状況の説明		・年度当初は2園中1園が、人材不足により人員を配置することができなかった。また、年度途中での退職等により、後任を配置するまでに時間を要し、2園中1園で6か月間採用ができず当初予算との乖離が生じた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	特別支援対象児の人数に応じた支援員の確保	目 標	(確保)	(確保)	(確保)	(確保)		
		実 績	25名確保	28名確保	17名確保	12名確保		
	支援計画で集団生活の目標を立て、支援児一人一人に対して適切な支援を実施	目 標	(実施)	(実施)	(実施)	(実施)		
		実 績	実施	実施	実施	実施		
達成状況説明	・ハローワークの活用やチラシ掲示等による募集周知を図り人材確保に努めたが、年度途中での退職等もあり、年間を通して支援児数に応じた支援員を確保出来たのは1月間のみであった。 ・支援児の発達や特性に合わせた個別の指導計画や日々の活動日誌により園生活で目指すべき姿などの目標をたて、支援を行うことができた。							
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	対象となる園児の保護者へのアンケートで、特別支援員の対応への満足度(80%以上)を含め、本事業のあり方について検証する。	目 標	()	(80%以上)	(80%以上)	(80%以上)	()	
		実 績		97.6%	92.2%	98.93%		
進捗状況説明	・保護者アンケートでは、評点による指標のほか、自由意見欄に「子どもの性格、特徴をよく捉え、話し方、関わり方を考えて実践して頂いた」「支援員の配置で、子供の成長に大きく影響を受けて、とても成長したと感じる」など、事業を評価する意見が多く見られた。これは、支援員が幼稚園での関わりや育ちを日々、丁寧に伝え、共有したことが保護者への信頼感につながった。支援児が安心安全に過ごせるよう個に応じた支援を行い、愛情をもって関わったことが大きな成長につながった結果と捉えている。							

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・全国的な有資格者(保育士・幼稚園教諭免許所持者)の人材不足に加え、町立幼稚園へ入園する支援児の増加もあり、開園時から人材を充足させることが困難な状況が毎年度続いており、今後も人員確保が難航することが予想される。なお、人員確保を優先とし、無資格者の配置で対応しているが、支援員数に対しての無資格者の割合が多くなる園があった。 ・令和4年度より、教育委員会へ心理士が職員として配置されたことにより、研修会を開催し支援員のスキルアップや、幼稚園への巡回、相談等を行うことで、対象園児への充実した支援へと繋がっている。	・無資格者の配置もあることから、支援児の特性に応じた相談や支援員自身のスキルアップを目的に、町の心理士による研修会や巡回指導を実施。また、互いの課題解決につながるよう、情報交換会を実施する。
今後の取り組み方針		
・年度当初から支援児数に応じた有資格者支援員の配置ができるように努める。また、近隣市町村や民間同職種の勤務条件や職場環境について情報収集を行い、応募者の増、離職者の減に向けて改善すべき点について対応を検討する。また、引き続き広報紙やハローワーク等を活用し、人材募集の周知強化に努める。 ・支援員同士の情報交換の場を設け、互いの経験や知識を共有できるようコミュニケーションを活性化させる。また、支援員の成長や頑張りを褒め、モチベーションを維持させていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>32,920</td><td>32,669</td><td>26,135</td><td>6,534</td><td>251</td></tr></table> 西原町 32,669千円 報酬(12名) 21,385千円 (他に補助対象外251千円) 〔ほか、報酬費(交付対象外251千円)〕 期末手当(12名) 7,132千円 費用弁償(4名) 157千円 共済費(12名分) 3,995千円 幼稚園特別支援教育支援員 (会計年度任用職員) 12名					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	32,920	32,669	26,135	6,534	251
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
32,920	32,669	26,135	6,534	251										
資金の 使途の 流れ 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支援員については履歴書及び面接により適切な人選を行っている。 ○会計年度任用職員の給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。 ○支援員の雇用にあたって、必要な経費のみを事業の対象としている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3	親子通園事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－2－(2)－イ	
担当部署名	福祉部　こども課	事業実施(予定)年度	平成28年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	子ども・若者の育成支援		
					Ⅲ－3－(1)		
事業内容	【対象者】 心身の発達が気になる児童(障がいのある児童を含む)とその保護者 【事業目的】 日常生活における基本動作の指導及び集団生活への適応訓練、並びにその保護者に対する療育上の助言等を行うことで、保護者自身が子どもの発達特性と関わり方を理解し、子育てへの不安感を軽減する。 【事業内容】 町内の児童館に、保育士等を配置し親子への支援を行う。一人ひとりの発達の状況に応じて個別支援計画を作成し、小集団での保育を基本に子どもの発達課題にあった活動を実施する。						
効果発現年度	■当年度　□後年度(　年度)						
実施方法	■直接実施　□委託　□補助　□負担　□その他(　)						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」＋「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	予算の状況	(a)当初予算額	7,000	7,000	9,018	8,909	10,506
		(b)予算現額	7,000	7,000	9,018	8,909	11,012
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	506
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	7,000	7,000	9,018	8,909	11,012
	B.執行済額		6,679	6,666	8,186	8,703	11,012
	うち交付金充当額		5,343	5,332	6,548	6,961	8,809
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		95.4%	95.2%	90.8%	97.7%	100.0%
予算の状況の説明		概ね予定どおり事業を執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	親子通園受け入れ:8組	目 標	(8組)	(8組)	(8組)	(8組)	
		実 績	8組	12組	12組	4組	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	目標を達成できなかった。3歳児以降の保育料無償化や少子化の影響から対象となる幼児が少なく、勧奨しても就労している保護者ばかりで、親子通園につながらなかった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	対象となる児童の保護者へのアンケートで、育児不安の軽減が図られたか(80%以上)を含め、当該事業のあり方を検証する。	目 標	()	(80%)	(80%)	(80%)	()
		実 績		100%	100%	100%	
	【参考指標】	目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	親子通園の卒園時期にアンケートを実施し、育児不安の軽減について評価した。対象となる保護者4名全員から回答があり、2名が育児不安について「とても軽減」された、2名が「軽減された」と回答があり、成果目標を達成している。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(親子通園受け入れ数) 目標に届かなかった原因として、少子化の影響と、3歳児以降の保育料の無償化による家庭保育の児の減少から、通園につながる児が少なかった。就労している保護者が多いため、通園につながりやすい仕組みづくりが必要。 (育児不安の軽減) 目標を達成した要因として、親子通園では児の発達に応じて個別支援計画を作成し、個性のある活動を実施した。日常生活における基本動作から集団への適応訓練、並びにその保護者に療育上の助言等を行うことで、保護者自身が子どもの発達特性と関わり方を理解でき、子育ての不安感を軽減できた。	・保育園等に就園している児とその保護者(基本的に就労している)が通園できるような取り組みが必要のため、R6.12月に沖縄県市町村発達障害者支援体制サポート事業コンサルトを利用し、今後の運営体制について助言を受けた。そこで登園日を週1回、半年間で設定し、保育の内容を変更することが良いと提案を受けた。保育内容については、他市町村の親子通園事業の視察を行い、修正した。
今後の取り組み方針		
・保育園等に就園している児とその保護者(基本的に就労している保護者)が親子通園を利用できるよう、登園日を週1回、半年間の通園にする。 中にはきょうだい児の育休中の保護者がいるため、きょうだい児の託児を確保し、親子通園のニーズがある親子の利用につなげる。 ・保育の内容を修正する。 ・親子通園事業の周知を保育所にも行い、児の育ちの共有を図る。		

資金の流れ				
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
		総事業費	交付対象事業費	交付金充当額
		11,012	11,012	8,809
		市町村負担金		2,203
		交付対象外経費		0
西原町 11,012千円		報酬	6,838千円	親子通園事業 会計年度任用職員(保育士)
		職員手当等	2,073千円	
		共済費	1,381千円	
		旅費	181千円	
		報償費	302千円	臨床心理士、音楽療法士、アロマ講師、ヨガ講師
		需用費	198千円	消耗品
		役務費	26千円	通信費
		使用料	10千円	施設使用料、車両借り上げ料
		負担金	3千円	沖縄県発達支援通園事業連絡協議会における研修参加費
資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○会計年度任用職員は、面接を行い、実績、知識等を勘案した上で適切な人材を選定している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○給与等に関する町の条例・規則に基づいた適切な支払となっている。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○若干の不要額が発生したが、予算規模は事業内容に見合った適正な規模であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○費用・使途については事業実施にあたって必須の経費となる。

市町村名	西原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	4	西原町雇用サポートセンター活性化事業		新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(11)－ア			
					雇用機会の確保と多様な人材の活躍促進			
担当部課名	建設部 産業観光課		事業実施(予定)年度	平成27年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ－2		
事業内容	求職者の中には多様な困難を抱えた相談者もあり、専属の相談員を配置して対応することで就業まで支援していく体制が必要である。求職者に寄り添う形での就職支援を行うとともに、就職セミナーやスキルアップ講座などを定期的に開催し、町内で就業できるよう支援していく。また、求人の掘り起しや各種講座によるスキルアップを図ることで、事業者の求める人材の育成とのマッチング、事業活動を支援することにつながる。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	3,220	3,132	3,089	3,108	3,108	
		(b) 予算現額	3,220	3,132	3,089	3,108	3,108	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d) 繰越額						
		A. 計(b+d)	3,220	3,132	3,089	3,108	3,108	
	B. 執行済額		3,219	3,045	3,089	3,108	3,107	
	うち交付金充当額		2,575	2,435	2,470	2,486	2,486	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		100.0%	97.2%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行した。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	求職者と企業のマッチング	目 標	(30件)	(20件)	(20件)	(20件)		
		実 績	87件	52件	57件	40件		
	スキルアップ講座等	目 標	(30件)	(20件)	(20件)	(20件)		
		実 績	69件	18件	20件	18件		
達成状況説明	・「求職者と企業のマッチング」は、過去に求人を受けた事業者からのリピート利用が増加している。また相談者へのきめ細かな支援により、マッチング件数は目標を上回ることができた。 ・「スキルアップ講座」は参加人数不足による講座の中止があり、目標をわずかに下回った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	新規雇用割合50%以上	目 標	()	(50%)	(50%)	(50%)	()	
		実 績		37.40%	50.40%	45.80%		
	【参考指標】 新規就業者	目 標	()	(8人)	(8人)	(8人)	()	
		実 績		55人	66人	60人		
	【参考指標】 新規登録求職者	目 標	()	(16人)	(16人)	(16人)	()	
		実 績		147人	131人	131人		
	【参考指標】 スキルアップ講座受講者数	目 標	()	(100人)	(100人)	(100人)	()	
		実 績		65人	84人	47人		
	進捗状況説明	近年の利用者層は年齢・性別に関わらず多岐にわたり、高齢者や障がい者、ひとり親世帯や生活困窮者など、さまざまな課題を抱えている相談者の割合が増えている。そのため、就業に向けて関連機関との連携や継続的なサポートが必要なケースが増えており、きめ細かな対応に取り組んでいる。そのような現状で新規雇用割合の目標はわずかに達成できなかったが、求職者と企業のマッチングに関し、非常に重要な役目を果たしたといえる。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	求職者は、一般の方はもとより高齢者、障がい者、子育て世帯や生活困窮者など、幅広い層からニーズがある。このような方のニーズが増加する中で、なかなか就業に結びつかない場合や、就業まで時間をかけた柔軟なサポートが必要なる場合があるため、雇用割合が目標に満たなかった。 また社会的に人材不足が課題となっている中、事業者の経営活動を支援するために求人ニーズに合った人材とのマッチングが重要である。	中高年や障がい者は、比較的就職活動期間が長引く傾向にある。「自立支援」という観点からも、雇用サポートセンターで継続的にサポートすることで現状の把握、個々のケースに応じた対応ができ、就職意識向上につながる支援を地道に行っていく必要がある。 求人企業とのコミュニケーション、企業の掘り起こしを進めることで、求人側のニーズを把握することが重要である。
今後の取り組み方針		
近年の利用者層は、さまざまな課題を抱えている相談者が増えている。相談者の健康や生活状況などを把握し、行政や支援機関等と連携を図りながら本人の要望を実現できるように柔軟できめ細かな対応を図る。 また企業のニーズを踏まえて、企業が必要とする人材の育成・提供に向けてスキルアップセミナー・講座の内容を充実させ、求人のマッチングの精度を高めていく。 それらを踏まえ、自主的に活動が行える方には自立支援を後押しし、サポートが必要な求職者に対しても粘り強くサポートしていき、常に情報収集に努めて就職のマッチングにつながるような支援を行う。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,107</td><td>3,107</td><td>2,486</td><td>621</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,107	3,107	2,486	621	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
3,107	3,107	2,486	621	0										
(西原町雇用サポートセンター活性化業務) 西原町 3,107千円 委託料 3,107千円 (株)プラスキャリア 3,107千円														
資金の流 れ、費 用、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○西原町プロポーザル実施要綱の規定に準じて公募型プロポーザル方式で実施しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○当初計画の見合った事業を執行しており、予算規模は、適正であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・用途については完了検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	西原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5	輸入感染症対策推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－2－(3)－エ		
担当部署名	福祉部　こども課	事業実施(予定)年度	令和2年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	感染症に備えた保健衛生、医療提供体制の拡充・強化		
事業内容	外国人観光客受け入れの際に懸念される感染症を防ぐことを目的に、感染力の強い麻しん風しんの接種勧奨を強化するため、予防接種費用を助成し、感染症の蔓延防止を図る。							
効果発現年度	■当年度　□後年度(　　年度)							
実施方法	□直接実施　■委託　□補助　□負担　□その他(　　)							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	8,058	7,417	8,147	8,147	11,427	
		(b) 予算現額	8,058	7,417	8,147	8,745	8,069	
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	598	▲ 3,358	
		(d) 繰越額					0	
	A. 計(b+d)		8,058	7,417	8,147	8,745	8,069	
	B. 執行済額		7,192	6,532	6,599	6,437	5,947	
	うち交付金充当額		5,753	5,224	5,278	5,149	4,757	
	次年度繰越額							
	執行率(%) (B/A)		89.3%	88.1%	81.0%	73.6%	73.7%	
予算の状況の説明		・事業計画において、予防接種の委託料は年間の接種予定人数分を計上しているが、3月接種分については、委託料の請求が翌月となるため交付金対象外としている。2月接種希望者が計画よりも少なかったことから、その分不用額が発生することとなった。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	・麻しん風しん(MR)予防接種の実施(接種率95%以上)		目 標	(95%以上)	(95%以上)	(95%以上)	(95%以上)	
			実 績	88%	84%	90%	80.7%	
達成状況説明		・活動目標を接種率95%としていたが、実績は90%と目標を下回った。 ・MR予防接種1期対象者267名、2期対象者350名へ予診票の送付、勧奨通知の送付及び勧奨訪問を実施した。 ・1期末接種者については、1歳6ヶ月頃勧奨ハガキの送付、1歳半健診(1歳7ヶ月～8ヶ月頃)での接種勧奨、1歳10ヶ月頃に保健師が接種勧奨のための訪問を実施した。 ・2期末接種者については、9月頃勧奨ハガキの送付、11月の就学時健診での接種勧奨、1月～2月頃母子保健推進員が接種勧奨のための訪問を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	外国人観光客受入に起因する麻しん風しん集団感染の発生件数0件		目 標	()	(0件)	(0件)	(0件)	()
			実 績		0件	0件	0件	
進捗状況説明		乳幼児予防接種「麻しん風しん」の助成を行ったことで、積極的に予防接種の接種勧奨を行うことができ、令和5年度に引き続き外国人観光客受入に起因する感染件数は0件であった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・外国人観光客受入に起因する感染件数が0件であったのは、予防接種の勧奨強化により集団免疫が形成されていることが要因と考えられる。 ・令和3年度より接種勧奨を強化しているが、目標の接種率を達成することはできなかった。今年度は、ワクチンの偏在があり接種を受けることができなかったことが接種率の低下につながったと考える。 ・未接種者の中には予防接種を受けない方針としている方もいるため、今後の勧奨方法にも工夫が必要と考えられる。 ・令和5年度より行政措置予防接種として、1期末接種者については5歳となる年度の末日まで、2期末接種者については小学校6年生まで、接種費用の助成を開始した。	・「麻しん風しん」の予防接種の接種率95%以上の目標を達成できるように、予防接種の広報活動等のさらなる工夫が必要である。 ・ワクチンの偏在を理由に接種できなかった者に対しては、2年度間接種可能対象期間が延長するということをホームページやアプリ等SNSを活用した周知を行い接種率向上に努める。 ・引き続き未接種者の理由の分析が必要である。
今後の取り組み方針		
・乳幼児の予防接種の勧奨方法として、引き続き通知及び訪問等の広報活動に取り組み、「麻しん風しん」の予防接種の周知を図るとともに、接種率95%以上の目標を達成できるように取り組む。 ・乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン(MRワクチン)の偏在等により接種を希望したにも関わらず接種の機会を得られなかった者に対し2年度間接種対象期間を延長します行政措置の対象者に対しても中学校就学前まで通知や保健師等による訪問などの手段により接種勧奨を行うことにより接種率向上を図る。 ・母子手帳アプリの推進に努め、アプリを活用した接種計画管理やプッシュ通知等で接種忘れがないように保護者に対しお知らせする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>5,947</td><td>5,947</td><td>4,757</td><td>1,190</td><td>0</td></tr> </table> 西原町 5,947円 委託料 5,947円 中部地区医師会 5,935千円 那覇市立病院 12千円 受託医療機関 5,935千円 受託医療機関 12千円 麻しん含有ワクチン 予防接種委託料 麻しん含有ワクチン 予防接種委託料					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	5,947	5,947	4,757	1,190	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
5,947	5,947	4,757	1,190	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業実施できる事業者として、地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定による随意契約を行っており妥当であった。 ○不用額は事業費の26%のため適正な執行管理の徹底が必要。 ○費目、使途については毎月の報告により検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断し適正であった。											
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	西原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	6	平和の約束運営事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-4-(1)-イ		
担当部課名	総務部 企画財政課		事業実施(予定)年度	令和4年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄戦の実相・教訓の次世代継承 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	西原町平和事業の一環として、西原町平和事業「平和の約束2024」を実施し、平和意識の醸成を図る。							
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
		(a)当初予算額	1,478	3,419	6,215			
		(b)予算現額	985	3,607	6,412			
		(c)増減額(b-a)	▲493	188	197	0	0	
		(d)繰越額						
		A.計(b+d)	985	3,607	6,412	0	0	
		B.執行済額	908	3,607	6,418			
		うち交付金充当額	725	2,885	5,134			
		次年度繰越額						
		執行率(%) (B/A)	92.2%	100.0%	100.1%	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		・「平和の語り部アーカイブ動画企画制作」について、当初計画目標の1名に加え、2名の方との調整が可能となったため、委託料を増額。 ・会計年度任用職員の給与改定に伴う差額分の支給が生じたため、人件費を増額。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	「平和の約束2024」と題して、4つの関連事業を実施する。		目 標	()	(開催)	(開催)	(開催)	
			実 績		実施	実施	実施	
達成状況説明		・西原町平和事業の一環として、「平和の約束2024」と題して4つの関連事業を実施した。 ・音楽文化を通して平和の尊さを考え、平和の心を醸成するとともに平和意識の高揚に努めることを目的に「平和の約束2024平和コンサート」を実施した。 ・町内外の戦跡などを巡り戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶ場として「親子平和バスツアー」を開催した。 ・「平和資料展」、「チョークアート制作展」を開催し、平和の尊さを周知し、広く平和を発信した。 ・戦争体験者の体験談を後世に引き継いでいくため、戦争体験者の語りを撮影し、アーカイブ映像を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	「平和コンサート」イベント来場者350名		目 標	()	(250名)	(350名)	(350名)	()
			実 績		250名	350名	360名	
	「平和バスツアー」参加者1回20名を2回実施(2回合計:40名)		目 標	()	()	(20組)	(20名×2回)	()
			実 績			28名	26名	
	「チョークアート制作事業」作品数20作品		目 標	()	()	(30名)	(20作品)	()
			実 績			59名	10作品	
	「平和の語り部アーカイブ動画企画制作」戦争体験者1名の語り動画を制作		目 標	()	()	(作成)	(1名制作)	()
			実 績			作成	3名制作	
	進捗状況説明		・令和6年6月23日に開催した音楽イベント「平和の約束2024」は、来場者数360名となり、目標を達成することができた。音楽文化を通して平和の大切さを発信する目的に繋がる効果があったと捉えている。 ・「親子平和バスツアー」は、開催時期などの見直しを行ったが、目標40名に対して26名の参加となった。 ・「チョークアート制作事業」では中学校2校、高校1校のほか、町内の大学(短期大学)2校にも作品制作に協力していただき、10作品制作した。 ・「平和の語り部アーカイブ動画企画制作」では、当初、戦争体験者1名の制作目標であったが、新たに2名の方と調整が可能となったため、3名の方に協力いただき動画を制作した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・沖縄は去る大戦で多くの犠牲を出し、本町も激戦地で多くの住民が犠牲となった。そのような歴史的背景を経て、戦争の悲惨さや平和の大切さを次世代へ伝えていくため、引き続き平和事業に取り組む必要がある。 ・「平和の約束2024平和コンサート」は当初目標を達成することができ、来場者の感想でも多数の方が「参加してよかった」「平和の大切さを考える機会になった」と回答し、平和意識の醸成に大きな効果があった。 ・「平和バスツアー」について、開催時期の見直しを行い、夏休みの日曜日と2月の土曜日の2回開催したが、40名の参加目標に対し26名の参加者であった。その要因として、参加対象者を親子に限定していることが要因と考えられる。平和の大切さを次世代へ伝えていく取り組みとして幅広い世代が参加できるように検討する必要がある。 ・「チョークアート」については、制作目標数20作品に対し、10作品の作成となった。その要因として、参加予定者の辞退や制作協力先が見つからなかったことが考えられる。 ・戦争体験者の高齢化により、沖縄戦の「記憶」を直接語り継いでいくことができるのはあと数年と考えられていることから、戦争体験談を後世に引き継いでいくことが喫緊の課題となっている。	・戦争の悲惨さや平和の大切さを次世代へ伝えていくため、引き続き平和事業に取り組み、様々な世代が参加できる取組を検討する必要がある。 ・音楽イベント「平和の約束」は、引き続き平和意識の醸成に努めるよう事業内容を工夫する必要がある。 ・「平和バスツアー」は平和の大切さを次世代へ伝えていく取り組みとして、参加対象者を親子に限らず幅広い世代が参加できるように検討する。 ・「チョークアート」については、制作協力先を小学校等にも広げ、未来を担う若い世代に向けた事業となるように検討する。 ・戦争体験談を後世に引き継いでいくために、1名でも多くの戦争体験者の語りを撮影し、アーカイブ映像を制作できるよう検討する。
今後の取り組み方針		
・戦争の悲惨さや平和の大切さを考えるきっかけとなるよう、様々な世代が参加できる取り組み、事業内容を工夫する。 音楽イベント「平和の約束」は、幅広い世代に対して音楽文化を通して平和の尊さを考え、平和の心を醸成する取り組みとして非常に効果的であると考えられるため、事業を継続する中で、出演者やプログラムの内容を検証して、より効果的な発信を図る。 ・平和の大切さを次世代へ伝えていく取り組みとして、参加対象者を親子に限らず幅広い世代が参加できる「平和バスツアー」を開催し、募集の周知方法を工夫する。 ・「チョークアート」については、制作協力先を小学校等にも広げ、小学校から大学まで未来を担う若い世代に向けた事業となるように取り組んでいく。 ・未来を担う世代に対しての各種事業を推進し、平和を考える機会を作り、将来に向けて平和の大切さや意識を醸成し、平和の心を繋げていく。 ・戦争体験者の体験・記憶を継承するために、「平和の語りベアーカイブ動画企画制作」にご協力いただける方の情報を収集するとともに、戦争体験者の語りを撮影し制作したアーカイブ映像を今後の平和事業で活用していく。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table><tr><th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr><tr><td>6,418</td><td>6,418</td><td>5,134</td><td>1,284</td><td>0</td></tr></table> 西原町 6,418千円 報酬(1人) 2,014千円 期末手当(1人) 420千円 勤勉手当(1人) 352千円 共済費(1人) 415千円 報償費(4組) 75千円 消耗品費 106千円 役務費 16千円 委託料 3,020千円 (株)日本広告 2,470千円 クラブハンズ沖縄合同会社 550千円 催事業務委託 平和の語りベアーカイブ動画企画制作委託					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,418	6,418	5,134	1,284	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,418	6,418	5,134	1,284	0										
資金の流 点検・費 目・	評価	点 検 項 目		評価に関する説明										
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○委託事業者はプロポーザル審査を実施して選定しており、妥当であった。										
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○当初計画の見合った事業を執行しており、予算規模は適正であった。										
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目、使途については、精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断し、適正であった。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7	西原町観光PR促進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－3－(2)－ウ	
担当部署名	建築部 産業観光課	事業実施 (予定)年度	令和4年度～令和13年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	多彩かつ質の高い観光の推進		
事業内容	観光・歴史・文化情報等の発信、誘客イベントの開催を進め、観光による交流人口の増加、観光振興への町民、町内事業所等の参加を目指すため、観光PR、町産品のPR業務、観光・歴史・文化情報等の発信に取り組む。また、PR活動に必要な観光コンテンツの制作を行い、西原町のブランド力の向上を目指す。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 ■補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)		R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	7,643	10,181	23,219		
		(b) 予算現額	7,643	10,181	20,758		
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	▲ 2,461	0	0
		(d) 繰越額					
		A. 計 (b+d)	7,643	10,181	20,758	0	0
	B. 執行済額		7,643	9,960	20,757		
	うち交付金充当額		6,114	7,967	16,606		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	97.8%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		観光コンテンツの制作に関して、契約額が確定した委託料の執行残が発生した。 事業実施のための人員配置について、年度途中から1名の欠員が生じ、補充に至ることができなかった。また車両リースについて、車両確保・納車の遅れにより執行がなかった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	観光・歴史・文化情報等の発信事業	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績		実施	実施	実施	
	誘客イベントの実施 町産品PR業務	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績		実施	実施	実施	
	観光キャラクター運営事業の委託	目 標	()	(実施)	(実施)	(実施)	
		実 績		実施	実施	実施	
	観光PRコンテンツの制作	目 標	()	(ー)	(ー)	(実施)	
		実 績		ー	ー	実施	
達成 状 況 説 明	西原さわふじマルシェとその施設内にある「西原劇場」を拠点として、観光・歴史・文化情報等を発信、誘客イベントや町産品PRの事業を実施した。 西原町の観光キャラクター「さわりん」を活用した西原町のPRとして、「さわりん」を町内外に出動させた。また、西原町の魅力を発信するための観光コンテンツとして、観光ガイドブックとPR動画を制作した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値 (年度)
	誘客イベント実施	目 標	()	(2回)	(6回)	(6回)	()
		実 績		7回	6回	6回	
	観光キャラクター出動	目 標	()	(100回)	(100回)	(100回)	()
		実 績		125回	129回	135回	
	町産品PR事業	目 標	()	(12回)	(6回)	(6回)	()
		実 績		13回	7回	8回	
	観光PRコンテンツの作成	目 標	()			(作成)	()
		実 績				作成	
	進 捗 状 況 説 明	西原町観光まちづくり協会が、やちむん市や夜市など定番化しつつあるイベントや、フォトコンテストなどのイベントを主催して、西原町への誘客に繋がった。また県産品奨励月間の関連イベントなどをはじめ、町内外のイベントの参加して町産品のPRに取り組んだ。豆腐フェスタや沖縄そばの日のイベントなど、沖縄らしさのあるイベントを通して、町産品の普及拡大を目指した。 観光キャラクター「さわりん」は、町内外のイベントに積極的に出動し、目標を上回った。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	西原町は那覇市や浦添市などの都市圏に接しているが、観光資源としてPRできるものが少ないため、これまで観光情報の発信や観光誘客に課題があった。本事業による誘客イベントや町産品PRの実施により、西原町の魅力を発信して誘客促進や観光振興を図る必要がある。	行政と観光まちづくり協会、商工会や町内企業、大学の学生等とさまざまな連携を深めた取り組みを通じて、県外など広くPRできる手法を見出し、効果的な観光情報の発信を目指す。
今後の取り組み方針		
・県内外から広く誘客できるイベントの企画・実施を進め、本町の観光振興への波及効果を高める。 ・定期的な意見交換・運営の指導助言を行い、観光まちづくり協会の組織強化を図る。 ・イベント開催時に来場者へアンケートを実施し、今後のイベントの改善につなげる。 ・令和6年度に制作した観光ガイドマップや観光PR動画の有効な活用を推進し、観光情報の発信を行う。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額		交付対象外経費
		市町村負担金		
23,030	20,757	16,606	4,151	2,273

```

graph LR
    A[西原町  
20,757千円] --> B[補助金  
9,508千円]
    A --> C[委託料  
9,802千円]
    A --> D[備品購入費  
1,446千円]
    B --> E[一般社団法人  
西原町観光まちづくり協会  
9,508千円]
    C --> F["(株)東洋企画印刷  
6,930千円"]
    C --> G["(株)MARUKIN  
2,872千円"]
    D --> H["(株)サードアイ  
1,446千円"]
    I["(ほか、補助金(交付対象外経費2,273千円) )"]
    
```

・観光・歴史・文化情報等の発信
・西原町観光キャラクター「さわりん」運営
・誘客イベント、町産品PR事業の実施
・町内観光情報やイベント情報の発信(SNS等)の実施

観光ガイドブック制作業務委託

観光PR動画制作業務委託

着ぐるみ購入費

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8	緑のリサイクル事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－1－(1)－イ	
担当部課名	建築部 環境安全課	事業実施(予定)年度	令和4年度～令和13年度		沖縄振興基本方針該当箇所	社会生活における資源循環の推進	
						Ⅲ－10－(1)	
事業内容	各家庭や地域清掃で排出された木枝廃棄物の収集・処理を行い、焼却ごみを削減する。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	予算の状況	(a)当初予算額	10,206	9,831	14,551		
		(b)予算現額	9,095	5,590	8,113		
		(c)増減額(b-a)	▲1,111	▲4,241	▲6,438	0	0
		(d)繰越額					
		A.計(b+d)	9,095	5,590	8,113	0	0
	B.執行済額		7,820	4,899	7,205		
	うち交付金充当額		6,255	3,919	5,764		
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		86.0%	87.6%	88.8%	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初はホイールローダーの備品購入を検討していたが、作業場の擁壁が隣地の土砂の影響により傾いてきており、継続してチップ化作業を行うのが困難と判断し、備品購入費を減額した。不用額は、委託料の執行残によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
	・町内一般家庭、共同清掃から出た木枝を収集し、処理する。	目標	(—)	(実施)	(実施)	()	
		実績	—	実施	実施		
	【R4活動目標】 木枝の収集量の把握 廃棄物処理施設技術管理者の資格の取得 破砕機の購入	目標	()	(—)	(—)	()	
		実績	業務委託契約締結 資格取得 破砕機の購入	—	—		
達成状況説明	家庭からの木枝の収集・処理を実施した。 収集した木枝の計量を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R4年度	R5年度	R6年度	目標値(年度)
	木枝の収集量の増加(R4比5%)を図る	目標	()	(—)	(226,941kg)	(226,941kg)	()
		実績		—	188,575kg	201,480kg	
	【R6成果目標】 ・ホイールローダーの購入	目標	()	()	()	購入	
		実績				未購入	
	【R5成果目標】 ・簡易車両重量計の購入 ・カッターの購入	目標	()	()	購入	—	
		実績			未購入	—	
	【R4成果目標】 木枝の収集量の把握 廃棄物処理施設技術管理者の資格の取得 破砕機の購入	目標	()	()	把握取得 購入	—	—
実績			216,135kg 取得、購入	—	—		
進捗状況説明	R6年度の木枝の収集量は201,480kgで、R5よりも増加したが、目標の収集量には届かなかった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	ホームページ等で剪定した木枝のリサイクルについて広報したこともあり、木枝の収集量は前年度よりも増加したが、目標にはわずかに足りなかった。目標を達成できなかったのは、木枝がリサイクルされず、まだ一定数、焼却処理されているためと考えられる。	木枝の収集量を増加させるには、さらなる広報活動による木枝再資源化への理解、自治会の共同清掃作業への支援が必要である。
今後の取り組み方針		
・木枝の資源化周知の更なる広報活動。 ・自治会の共同清掃活動への支援。		

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
8,121	7,205	5,764	1,441	916

```

            graph LR
                A[西原町  
7,205千円] --> B[委託料  
6,442千円]
                A --> C[土地賃借料  
763千円]
                B --> D[西原町シルバー人材センター  
6,145千円]
                B --> E[瀬沖縄クリーン工業  
176千円]
                B --> F[南部広域行政組合  
121千円]
                C --> G[個人(1件)  
763千円]
                D --- H(木枝の収集・処理)
                E --- I(木枝の処理)
                F --- J(収集した木枝の計量)
                G --- K(木枝の処理作業・保管場所の土地の賃借)
        
```

	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・ 費目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法第167条2第1項第3号の規定に準じて随意契約を行っていること等により、妥当と考えられる。 ○不用額については、委託料の請求月にズレがあるため。 ○費目、使途については毎月の報告により検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断し適正であった。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9	シェアサイクル活用推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ウ	
担当部署名	企画財政課	事業実施 (予定)年度	令和5年度～令和7年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	人と環境に優しいまちづくりの 推進	
事業内容	町民及び観光客の新たな移動手段の充実を図り、町内観光資源への誘引を図るとともに、本県の課題とされている過度な自動車依存からの脱却による脱炭素化の取組を進める。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	□直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	2,475	2,475			
		(b) 予算現額	2,475	2,475			
		(c) 増減額 (b-a)	0	0	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0		0	0
		A. 計 (b+d)	2,475	2,475	0	0	0
	B. 執行済額		2,475	2,475			
	うち交付金充当額		1,980	1,980			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		事業計画どおりに執行した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
	①シェアサイクル利用件数 6,000件/年		目 標	(6,000件/年)	(6,000件/年)	()	()
			実 績	5,847件/年	6,952件/年		
	②シェアサイクルを活用した観光資源周遊 ルートの確立		目 標	(確 立)	(確 立)	()	()
			実 績	確立	確立(継続)		
達成 状 況 説 明	・継続事業ということもあり、認知度の向上による利用件数の増加により、目標が達成できた。 ・利用状況を踏まえ、各ステーションのラック数の見直し及びステーションの新規設置により、利用環境の改善・拡充を図った。 ・シェアサイクルを活用した周遊ルートとして西原町歴史めぐりの周遊ルートを確立した(R5からの継続ルート)。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)
	シェアサイクル利用によるCO2排出量の削減 目標値 6,156kg-CO2		目 標	()	(6,156kg-CO2)	(6,156kg-CO2)	()
			実 績		5,999.022kg-CO2	7,132.752kg-CO2	
	進捗 状 況 説 明	・活動目標の達成状況のとおり、年間利用件数が増加したことによりCO2排出量の削減効果も増大し、目標を達成できた。 (R6算出方法: 想定自家用車距離(9km) × 1km輸送で排出するCO2(114g-CO2/人・km) × シェアサイクル利用件数)					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	(自走化に向けた課題) ・継続事業として一定の認知度向上等により利用件数が増加し目標は達成できたものの、将来的な「自走化」に向けては、新規登録者の確保(利用拡大)など、これまでに以上に利用件数の増加を図る必要がある。 ・ステーションの設置場所に偏りがあるため、空白地帯の利用環境を整える必要がある。 ・(高齢者等に対する利用環境の改善) ・シェアサイクルサービスを利用するためには、アプリによる利用者情報や決済方法の登録などスマートフォンの使用が絶対条件となるが、高齢者におかれては一定の利用希望はあるものの、スマートフォン操作が不慣れ、困難という理由からサービス利用を諦める事例が生じている。	(自走化に向けた課題) ・多くの利用者にとって、より利用しやすくなる環境を整えるため、より詳細な移動ニーズの把握を含め、利用者目線に立った適所適量の配置検討が必要である。 ・サービスそのものをより広く認知いただく必要がある。 ・(高齢者等に対する利用環境の改善) ・高齢者などスマートフォン使用に一定のハードルを感じている潜在利用希望者に対し、必要な支援を講じる必要がある。
今後の取り組み方針		
(自走化に向けた課題) ・利用者にとって、シェアサイクルによる移動が利便性を感じるものであり、交通手段の選択肢として広く一般化され、取組みとして自走化できるよう、各ステーションの利用状況を適宜分析し、必要に応じて柔軟な利用環境の確保を図る(ラック、車両等の適所適量配置の検討や増設等による環境拡充など)。 ・潜在利用希望者の掘り起こしのためのアンケート調査やステーション設置等に対する意見募集を行う(学生など多くの利用が見込める年齢層を対象に想定)。 ・更なる認知度の向上及び新規登録者数の増加を図るための周知強化を行う。 ・(高齢者等に対する利用環境の改善) ・高齢者等を対象とした利用方法の勉強会(シェアサイクル教室)の開催など、潜在利用希望者が支障を感じることなく利用ができる状態となるよう必要な支援、情報発信を行う。 ・(その他) ・観光資源周遊ルートに関しては、確立したルートを継続しつつ、西原町観光まちづくり協会や関係機関等と連携し、その周知強化及び活用拡充を図る。 ・本町のみならず、近隣市町村にも同一事業者によるシェアサイクルサービスが展開されている環境を活かし、他市町村と連携した周遊ルートの策定を検討する。 ・地域行事等が開催される際は、会場周辺の既設ステーションのラック増数又は臨時ステーションの設置など、柔軟かつ有効に活用できるよう事業者との連携を図る。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>2,475</td><td>2,475</td><td>1,980</td><td>495</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	2,475	2,475	1,980	495	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
2,475	2,475	1,980	495	0										
西原町 2,475千円 委託料 2,475千円 株式会社プロトソリューション 2,475千円 西原町シェアサイクル活用推進事業業務委託														
資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明											
金	○	支出先の選定方法は妥当か。	○地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定による随意契約を行っており妥当であった。 ○当初計画のとおり事業を執行しており、予算規模は適正であった。 ○費目、使途については毎月の報告により検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断し適正であった。											
の	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
流	-	受益者との負担関係は妥当であるか。												
れ	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												
検														
査														
目														

市町村名	西原町									
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】										
事業番号・事業名	10-①		地域防災強化事業				新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所		第4章-2-(4)-ア	
担当部課名	環境安全課			事業実施 (予定)年度	令和5年度～令和9年度			沖縄振興基本方針 該当箇所	危機管理体制の強化	
									Ⅲ-10-3	
事業内容	防災体制強化のため、災害監視カメラ等の整備や食料、飲料水等の備蓄及びIP無線の整備を行い、災害に強いまちづくりを推進する。									
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)									
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()									
予算額・ 執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度			
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	7,520	2,116						
		(b) 予算現額	9,562	2,326						
		(c) 増減額(b-a)	2,042	210	0	0	0			
		(d) 繰越額	0	0						
		A. 計(b+d)	9,562	2,326	0	0	0			
	B. 執行済額		8,176	2,326						
	うち交付金充当額		6,540	1,861						
	次年度繰越額		0	0	0	0	0			
	執行率(%) (B/A)		85.5%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!			
予算の状況の説明		物価高騰などにより備蓄用飲料水の単価がと当初予算額より増となったため、予算増額を行い対応した。								
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況						
					R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		
	・災害監視カメラ2基設置	目 標	(2基)	(-)	()	()				
		実 績	1基	-						
	・備蓄用飲料水(500ml)9,792本購入	目 標	(9,792本)	(9,792本)	()	()				
		実 績	9792本	9792本						
	・IP無線機15台を整備	目 標	(15台)	(-)	()	()				
		実 績	15台	-						
	達成 状 況 説 明	・備蓄用飲料水において、計画どおり(500ml)9,792本を購入、整備した。								
	成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)				基準値 (5年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)
・冠水被害の影響を特に受けている住宅地域へ監視カメラを2基設置し、大雨等の水害に警戒できる体制づくりを行う。		目 標	()	(体制強化)	(-)	()	()			
		実 績		体制強化	-					
・備蓄用飲料水をR9までの5年間で避難所最大想定避難者数(8,400人分)の1日分の飲料水を確保することを目標とし、R6は備蓄率59.7%整備することを目標とする。		目 標	()	(40.3%)	(59.7%)	()	()			
		実 績		40.3%	59.7%					
・IP無線機を15台整備し、災害発生時の体制強化を図る。		目 標	()	(体制強化)	(-)	()	()			
		実 績		体制強化	-					
進 捗 状 況 説 明		監視カメラ及びIP無線機を整備したことにより、大雨や災害時において迅速に対応できる体制を強化した(R5年度)。また、飲料水の備蓄整備にて、大規模災害時の被害の減少のための備えを行った(R5～R6年度)。								

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11-①	学校DX推進支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ	
担当部署名	教育総務課	事業実施(予定)年度	令和5年度～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Society5.0に対応する教育の推進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	学校現場におけるICT機器及びソフトウェアを有効活用するため、ICT支援員を配置し、教育活動におけるICT活用の向上を図る。						
効果発現年度	■ 当年度 □ 後年度(年度)						
実施方法	□ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	10,890	13,200			
		(b) 予算現額	9,159	11,417			
		(c) 増減額(b-a)	▲ 1,731	▲ 1,783	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計(b+d)	9,159	11,417	0	0	0
	B. 執行済額		9,092	11,124			
	うち交付金充当額		7,273	8,898			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		99.3%	97.4%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		概ね計画どおり事業執行を行った。 不用額1,731千円については委託料の減によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	町立小中学校6校への支援員配置 計2名		目 標 (2名)	(2名)	()	()	
	実 績		2名	2名			
達成状況説明	・ICT支援員2名を配置することができた。 ・ICT支援による定期的な学校巡回訪問に取り組み、教職員への支援を積極的に実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値(年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値(年度)
	教職員のアンケートにてICT機器を活用した授業を自ら行えるとする回答を全員(100%)とする。	目 標	()	(100%)	(100%)	()	()
		実 績		94%	88%		
	児童生徒アンケートにて昨年よりもICT技術の利活用能力が向上したとする回答を70%とする。	目 標	()	(70%)	(70%)	()	()
		実 績		96%	91%		
	進捗状況説明	【教職員】 「自ら行える」と回答した教員の割合は88%で目標を達成することができなかった。 【児童生徒】 概ね肯定的な「そうだ」、「どちらかというそうだ」と回答した児童生徒の割合は91%で目標を上回った。					

市町村名							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11-②	学校教室ICT環境整備事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-5-(3)-イ	
担当部署名	教育総務課	事業実施 (予定)年度	令和5年度～令和10 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	Society5.0に対応する教育の推 進		
					Ⅲ-3-(1)		
事業内容	町立小中学校の教室に大型提示装置等のICT機器を整備し、授業におけるデジタル教科書(含む独自教材などの教材)の活用、GiGAスクール構想にて整備されたタブレットの効果的な活用の促進を図る。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	16,122	31,582			
		(b) 予算現額	48,400	31,460			
		(c) 増減額 (b-a)	32,278	▲ 122	0	0	0
		(d) 繰越額	0	0			
		A. 計 (b+d)	48,400	31,460	0	0	0
	B. 執行済額		48,400	31,253			
	うち交付金充当額		38,720	25,002			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		施行率は100%であり、計画的に執行した。 予算額と契約額の差額により執行残が生じたことから、122千円の減額を行った。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	大型投影装置29式の整備	目 標	(43式)	(29式)	()	()	
		実 績	43式	29式			
達成 状況 説明	西原町立西原小学校に電子黒板29式を整備した。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)
	児童生徒にアンケート調査を実施し、ICTを活用した授業が分かりやすかったと答えた割合が80%以上	目 標	()	(80%)	(80%)	()	()
		実 績		96%	93.8%		
	進捗 状況 説明	整備した西原小学校の児童へのアンケート結果は電子黒板を使った授業がわかりやすいとの意見が目標値を超えて93.8%となり、ICT教材の効果が確認できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	児童へのアンケートにより、電子黒板の有効性が概ね確認できたが、他ICT機器と組み合わせた活用について、学校へ情報提供及び支援を行っていく。	個々の教員の操作性熟度に差があると考えられるので、個別の活用支援や研修、活用情報提供、タブレットとの連携支援等を行い、授業に役立てるよう支援していく。
今後の取り組み方針		
・教職員の操作性熟度による研修会の検討、新しく赴任した教諭への操作指導を行い、ICT活用能力の向上を図る。 ・学習者用タブレットとの連携した授業方法の情報提供等を行い、効果的なICT活用となるよう推進する。 ・新たなICT取組と電子黒板との連携について、学校現場、教諭へのサポートを行う。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31,460</td><td>31,252</td><td>25,002</td><td>6,250</td><td>208</td></tr> </tbody> </table> 西原町 31,252千円 備品購入費 31,252千円 OTNet株式会社 31,252千円 電子黒板整備(29第)一式購入 (西原小学校) ほか、備品購入費 (交付対象外経費208千円)					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	31,460	31,252	25,002	6,250	208
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
31,460	31,252	25,002	6,250	208										
資金の 使途の 流れ、 点検、 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○備品購入に係る契約は、一般競争入札で落札した業者との契約であり、適切であるとする。 ○予算規模について、予算執行率100%であり、適切な規模と判断した。 ○費用・使途については事業目的達成のために必要であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	西原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	12	西原町ひとり親家庭等放課後児童クラブ利用支援事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章－2－(1)－ウ		
担当部署名	こども課	事業実施 (予定)年度	令和5年度～令和13 年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	ひとり親家庭等の困難を抱える保護者 への支援			
					Ⅲ－4－(1)			
事業内容	ひとり親家庭等(ひとり親、生活保護世帯、非課税世帯)における放課後児童クラブの利用料を、施設を通して一部助成し、対象者の生活の安定と自立の促進を支援する。							
効果発現年度	■当年度 ■後年度(令和13年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	1,500	1,500				
		(b)予算現額	1,500	1,500				
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d)繰越額	0	0				
		A.計(b+d)	1,500	1,500	0	0	0	
	B.執行済額		1,366	1,519				
	うち交付金充当額		1,092	1,215				
	次年度繰越額		0	0		0	0	
	執行率(%) (B/A)		91.1%	101.3%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		おおむね予定通り執行することができた。						
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	利用料減免を行う放課後児童クラブへ助成		目 標	(1,500千円)	(1,519千円)	()	()	
			実 績	1,366千円	1,519千円			
達成 状況 説明		ひとり親家庭等(対象者)への事業内容の周知を迅速かつ徹底するために、各種広報ツール(広報誌・HP等)の活用や放課後児童クラブ(対象施設)と連携する等して、申請から交付までスムーズに実施することができた。 年度途中に対象施設を退所することによる年間分の満額助成とならないケースがあったものの、申請数が多かったため前年度より多い実績となった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)
	【利用料減免に対する満足度】 助成対象世帯(保護者)に対し、アンケート実施。		目 標	()	(80%)	(80%)	()	()
	「利用支援を受けたことで、役に立った」等の回答80%以上		実 績		100%	97.0%		
	進捗 状況 説明		令和7年2月～3月にかけて助成対象者(保護者)に対してアンケート調査を実施した。 33名から回答を得ることができた。大半が「役に立った」と回答し、大きな効果と継続的な支援の重要性を確認できた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	助成対象者(保護者)が退所等により資格要件を喪失した場合に、届け出をしていないケースがあった。申請内容に変更があった場合には速やかに届出を行うなどの周知が不足していた。	助成対象者に漏れなく助成金を交付できるよう、引き続き、申請(変更)、支給(資格喪失)の手続きを適宜実施するため、施設とも連携し、助成対象者への周知徹底を図る。
今後の取り組み方針		
・今後もひとり親家庭等への放課後児童クラブ利用料の一部助成を継続し、生活基盤の安定を図り、自立促進に取り組む。 ・引き続き、ひとり親家庭等の生活基盤安定と自立促進に取り組むとともに、その効果を検証・分析して、必要な支援があれば検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6,025</td><td>1,519</td><td>1,215</td><td>304</td><td>4,506</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	6,025	1,519	1,215	304	4,506
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
6,025	1,519	1,215	304	4,506										
対象者1人につき、1/2の助成金(上限5,000円) 西原町 1,519千円 (ほか、対象外経費4,506千円) 〔減免した利用料を請求〕 補助金 1,519千円 (ほか、対象外経費4,506千円) 〔利用料を減免〕 放課後児童クラブ 1,519千円 (ほか、対象外経費4,506千円) ひとり親家庭等(受益者)														
資金の流 れ、費 目・ 使 途 の 点 検 ・ 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・本補助金は実施要綱に基づき、支援対象者が利用する放課後児童クラブへ支出しており、支出先の選定方法は妥当である。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・実績が当初予算額を上回ったが、適正な予算規模と考える。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	・助成対象者(保護者)の生活安定と自立促進の支援を趣旨としているため、業務内容から判断しても妥当であると考ええる。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	・放課後児童クラブ利用料の一部助成であり、助成する全額が利用料の減免に充てられるよう、利用する施設に利用した期間を交付しているため、真に必要な項目に限定した助成と判断できる。											

市町村名	西原町						
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	13	西原町公園照明LED化事業			新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第4章-1-(1)-ア	
担当部署名	建設部都市整備課	事業実施 (予定)年度	令和5年度 ～ 令和8年度	沖縄振興基本方針 該当箇所	脱炭素島しょ社会の実現に向け たエネルギー施策の推進		
事業内容	町内各公園の既存照明のLED化を行うことにより、二酸化炭素排出量(消費電力)を削減し、低炭素社会の実現を目指す。						
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
	予算 の 状 況	(a)当初予算額	7,744	74,184			
		(b)予算現額	7,480	85,479			
		(c)増減額(b-a)	▲264	6,747	0	0	0
		(d)繰越額	0	0			
		A.計(b+d)	7,480	85,479	0	0	0
	B.執行済額		7,480	87,665			
	うち交付金充当額		5,984	70,132			
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	102.6%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
予算の状況の説明		当初予定していた箇所以外に後年度予定の箇所を前倒して工事を行うことになったため、予算の増額を行った。最終的には予算額と契約額の差額があり、予算現額からは2,656千円の残額が生じたが、予定箇所については追加箇所も含めて執行した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況				
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	
	公園照明LED化の実施 ・西原運動公園体育館 ・テニスコート ・運動公園内外灯 ・西原町都市公園	目 標	(調査設計実施)	(工事実施)	()	()	
		実 績	調査設計実施	工事実施			
	達成 状況 説明	・西原運動公園体育館等のLED化工事を完了した。 ・都市公園等20箇所のLED化工事を完了した。					
成果目標 (指標) 及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)
	公園照明LED化の実施 ・西原運動公園体育館 ・テニスコート ・運動公園内外灯 ・西原町都市公園	目 標	()	(設計完了)	(完了)	()	()
		実 績		設計完了	完了		
	【参考指標】 二酸化炭素排出量の削減値	目 標	()	(把握)	(約72%)	()	()
		実 績		把握	①77% ②79%		
		進 捗 状 況 説 明	R6年度工事予定箇所について完了した。 R6年度工事予定箇所の完了により、当該年度分の二酸化炭素排出量の削減目標を達成できた。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	当初予定していた工事箇所に加え、後年度予定箇所も前倒しで工事を実施したため、事業期間全体の短縮及び、二酸化炭素排出量削減の効果発揮を早めることができた。	事業計画とおりに事業を進め、二酸化炭素排出量削減の成果を効率的、効果的に実現できるよう引き続き取り組む。
今後の取り組み方針		
順次、未施工の箇所についてLED化を進める。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
西原町 87,666千円 〔その1〕 工事請負費 76,391千円 ㈱真和電工 76,391千円 〔西原運動公園体育館、テニスコート、園路灯の照明LED化工事〕 〔うち、対象外経費 8,243千円〕 〔その2〕 工事請負費 11,275千円 (有)大浜電設 11,275千円 〔都市公園等20箇所の照明LED化工事〕														
		<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>95,909</td><td>87,666</td><td>70,132</td><td>17,534</td><td>8,243</td></tr> </table>	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	95,909	87,666	70,132	17,534	8,243		
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
95,909	87,666	70,132	17,534	8,243										
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負者は指名競争入札で選定しており、妥当であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○事業計画に見合った目的、予算規模を達成しており、適正であった。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費用・使途については、完了検査を実施しており、目的に即し必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	西原町										
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】											
事業番号・事業名	14		緊急避難道路整備事業				新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第4章－2－(4)－イ		
担当部署名	建設部 上下水道課			事業実施(予定)年度	令和5年度～令和6年度		沖縄振興基本方針該当箇所		大規模災害等に備えた強くしなやかな県土づくりの推進		
		Ⅲ－10－(3)									
事業内容	交通弱者等を含めた観光客や町民の安全かつ円滑な避難行動の実現を図るため、未舗装の下水路管理用道路を緊急時の避難路としても活用できるようにアスファルト舗装を行う。										
効果発現年度	■当年度 □後年度(年度)										
実施方法	□直接実施 □委託 □補助 □負担 ■その他(請負工事)										
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
	予算の状況	(a)当初予算額	9,306	27,632							
		(b)予算現額	7,700	26,076							
		(c)増減額(b-a)	▲1,606	▲1,556	0		0		0		
		(d)繰越額	0	0							
		A.計(b+d)	7,700	26,076	0		0		0		
	B.執行済額		7,700	26,076							
	うち交付金充当額		6,160	20,860							
	次年度繰越額		0	0			0		0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!				
予算の状況の説明		事業計画どおり執行した。									
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)			達成状況							
				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度				
	整備工事の実施			目標 (委託完了)	(実施)	()	()				
	実績			委託完了	実施						
達成状況説明	整備工事を実施した。										
成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)			基準値 (年度)	R5年度	R6年度	R7年度	目標値 (年度)			
	整備工事の完了			目標 ()	(委託完了)	(完了)	()	()			
	実績				委託完了	完了					
	進捗状況説明	整備工事を完了し、目標を達成した。									

市町村名	西原町							
令和6年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	15	西原町和牛生産推進事業			新・沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第4章－3－(7)－(ア)		
担当部課名	建設部産業観光課	事業実施(予定)年度	令和6～令和13年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の強化			
					Ⅲ－1－(6)			
事業内容	農家の経営の安定化に向けて、子牛のブランド化を推進するため、優良母牛導入の支援及び優良種付経費の一部を支援する。また、農家の生産意欲を高めるため、畜産共進会を開催する。							
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,310					
		(b)予算現額	3,310					
		(c)増減額(b-a)	0	0	0	0	0	
		(d)繰越額	0					
		A.計(b+d)	3,310	0	0	0	0	
	B.執行済額		2,124					
	うち交付金充当額		1,699					
	次年度繰越額		0				0	
	執行率(%) (B/A)		64.2%	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
予算の状況の説明		予算減額188千円は、導入牛が当初計画より安価で落れできたことによる。計画どおり優良繁殖雌牛を4頭導入できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	R6活動目標(指標)		達成状況					
				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
	優良母牛の導入支援	目 標	(4頭導入)	()	()	()		
		実 績	4頭導入					
	優良種経費の一部を支援	目 標	(実施)	()	()	()		
		実 績	不実施					
	畜産共進会の開催	目 標	(開催)	()	()	()		
		実 績	開催					
	達成状況説明	計画どおり4頭の優良繁殖雌牛を導入することができた。 優良種経費の一部支援については一括交付金事業の対象要件を満たしていないため、対象外とする。 令和6年8月29日に西原さわふじマルシェにて西原町畜産共進会を開催することができた。						
	成果目標(指標)及び進捗状況	R6成果目標(指標)		基準値 (R5年度)	R6年度	R7年度	R8年度	目標値 (年度)
導入母牛の子牛とそれ以外の牛から生まれた子牛との価格差の割合 110%以上		目 標	(100%)	(110%)	()	()	()	
		実 績		未上場				
進捗状況説明		当年度に導入した優良母牛から産まれた子牛は販売までに時間を要するため、価格差がまだわからないので、把握次第迅速に検証する。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・優良母牛を導入後に種付けを行い、分娩、飼育期間を経てセリに出荷となるため、当該年度に導入した優良母牛から産まれた子牛とそうでない子牛の平均価格差割合の検証には期間を要する。	導入した優良母牛から産まれた子牛のセリ価格で効果の検証を行うため、家畜市場からのセリ価格データや、家畜改良協会からの和牛改良組合実績に係る資料(年齢分布・分娩間隔・得点等)を収集し、畜産農家への適切な管理指導を行うことにより価格の向上を図る。
今後の取り組み方針		
系統の良い優良母牛や妊娠牛を導入し、母牛の更新と生産基盤の強化を促進する。また、導入牛から産まれた子牛のセリ価格などの情報収集を行い、事業の成果を検証する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
西原町 2,124千円 補助金 2,124千円 農業者(3名) 1,820千円 西原町畜産共進会 実行委員会 304千円 〔ほか交付対象外経費 115千円〕 〔優良母牛導入補助〕 〔畜産共進会補助〕				
		総事業費	交付対象事業費	交付対象外経費
		2,869	2,124	745
			交付金充当額	市町村負担金
			1,699	425
資金使途の流 れ、点検 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明	
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助交付については補助金交付対象を交付要綱にて定めおり、妥当である。	
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○市場での牛の価格変動により不用額が生じたが、当初予定していた事業内容はすべて実施し、適切な規模だった。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である農家は総事業費の4割以上を負担しており、事業内容から判断して妥当であると考える。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業費の確定時において検査、確認をしており、使途	